

# 介護老人保健施設しおん

**症例概要**      利用者:男性 90代 要介護3

利用期間:R2年7月中旬～現在利用中

経過:認知症の妻と2人で暮らしていたがR2年4月中旬に自宅で段差に躓き転倒。右大腿骨頸部骨折で手術希望にてN病院へ入院。4日後右大腿骨人工骨頭置換術施行。その後車椅子移乗にて離床。リハビリ希望で4月下旬、同市内S病院へ転院。在宅復帰は入院期間内難しく、認知症の奥様と一緒に入所希望にて7月中旬にしおんへ入居される。その後奥様も同年8月上旬にしおんへ入所。同ユニット内で一緒に生活する事となる。

## 内 容

利用者さんは令和2年7月入所されました。入所後は歩行状態も安定されており車椅子から歩行器使用へ変更しております。食事は自立されており、排泄は失禁もあり日中リハビリパンツを使用し、夜間はおむつを使用しておりました。入所後は緩やかではありますが失禁回数も減り夜間オムツ使用から終日リハビリパンツに変更するなど身体機能の向上も見られておりました。

同年8月上旬に奥様が入所されました。奥様の希望で同室にて過ごされることになってからは、利用者さんも奥様も情緒不安定な様子が多々見受けられました。家に帰ると言って暴れたり、居室で奥様に怒鳴り、手をあげようとしたり、窓ガラスを割って出ていこうとしたり、離設しようと3階から玄関先まで職員の静止を振り切ることも多くなりました。其の度奥様も不穏になり号泣し、お互いに情緒不安定な日々が続きました。

ケアマネージャーやユニット職員、誰の話も受け入れないので何度も息子さんに来設頂き、利用者さんへの説得をお願いしました。説得後は部屋で不貞腐れたように横になり職員が話しかけても、本を読んでいて聞こえないふりをしておりました。利用者さんも奥様も慣れない施設生活と、コロナ禍によってご家族との関りも限られ、苛立ちが募っておられました。それはリハビリにも影響し、杖歩行へのステップアップも上手くいかずに、歩行器の状態が続きました。

心身共に不安定な状態を脱するため、ご本人のしたいこと、行きたいこと等自由に書いていただきました。「自分の家の近くの床屋で散髪したい。家の状態を見たい。自分の大好きな作家の本を買いたい。郵便はがきが欲しいので郵便局に行きたい。」紙にはしっかりとした字で書いておられました。石



巻のコロナ感染状況を確認し、感染対策を行った上で、病院受診の日に自宅へ一度戻ってみることにしました。10月末にご本人に伝えると、みるみる活気にあふれ、歩行器からの杖歩行ステップアップも順調に実施できました。自宅から以前使っていた愛用の杖を息子さんに持ってきて頂き、毎日の歩行距離も楽しく増やすことができました。身体機能だけでなく精神状態も安定し夫婦喧嘩もなくなり外出のために毎日2回フロア内を2人で散歩されていました。

病院受診後自宅に戻り、近所の慣れ親しんだ床屋へも行きました。好きな作家の本とはがきは息子さんに後日買ってきて頂きました。外出後は自分で出来ることを積極的に行う姿勢が見られ、今までは奥様に手伝ってもらっていた着替えも、自分で行うことができました。また、以前趣味で毎週新聞に投稿していた短歌を作って、はがきに直筆で書いていただき、職員が送るようにしました。

新聞に送った短歌も見事掲載され大変喜んでおられ更に心に余裕を持てるようになっております。今後もユニット職員はじめ家族や多職種と連携し利用者さんの「自分の家に帰って妻と老後を楽しむ」という夢を実現していけるよう全力で支援を続けていきます。